



配管 工事主任 寺澤 彰洋

2012年の設立当初から、さくら株式会社の一員として力を尽くしてきた寺澤彰洋。配管の工事主任として活躍する寺澤は、仕事に対してどのような思いを抱いているのだろうか。プレッシャーに打ち勝ち、前に進み続ける原動力に迫る。

「後輩」から

「社長」に……

高橋との出会い

社長である高橋との出会いは、前職時代にまでさかのぼる。もともと配管工として寺澤が働いていた会社に、後輩として入社してきたのが高橋だった。好奇心旺盛で、はじめての作業にも積極的に取り組む姿が印象に残っている。その一方で、ミスをするとう慌てた

様子でやってきては「寺澤さん、

なんとかしてください！」と言って部品を置いていく。失敗した部品が上司に見つかる、高橋のかわりに怒られるのはいつでも寺澤の役目だった。それでも高橋は、憎めない後輩だったという。

そんな高橋が独立すると聞いて、高い志と行動力を備えた後輩がどのような会社を作り上げるのだろうか興味を持った。そして「自分もそこで、一緒に働きたい！」と強く思い、さくらの一員として新たな一歩を踏み出したのである。

初心忘るべからず

配管の工事主任を任せられ、数々の現場に立つてきた寺澤。「カンパニーヒストリー」で語られたよ

適所の人員配置。それが自分の役目であり、力の見せどころだと考えています。

常に初心を忘れず、新たな気持ちで一つひとつの現場に向き合う寺澤。そんな寺澤が抱く、仕事や仲間たちへの思いとは。そして、寺澤を支える存在とは。

(後編に続く)

するためには、慢心は大きな敵。これまでの経験を活かしながらも、そのときそのときに合った判断を下していかなければならぬのだ。豊富な知識や技術に甘んじず、常に初心を忘れない。それが寺澤のモットーだ。

先頭に立つ者の役割

工事主任として現場をまとめるにあたり、何よりも大切にしていくのは雰囲気づくり。一人ひとりの作業員がやりがいを持ち、いきいきと働けるような環境を整えるのが目標だ。そのために心がけているのは、不安を顔に出さないこと。現場を無事に納めるまでは、正直なところ、毎日が不安の連続。何かを判断するたびに、本当にこれが最適だったのかと自問自答を繰り返す日々だ。けれど

うに、初現場の壮絶な思い出は今でも色あせずに胸に残っている。たゆまぬ努力で配管の技術を磨き、さくらとともに、一歩ずつ歩みを進めてきた。だが、どれだけ経験を積んでも、ひとつの現場がはじまるときのプレッシャーには慣れることがない。やる気とプレッシャーが混ざり合った複雑な心境だ。

「作業内容は似ていても、一つひとつの現場はそれぞれ異なるもの。慢心していると、想定外の出来事が起きたときに対処できなくなってしまう」。

現場の規模が大きくなればなるほど、関わる業者の数も増え、工程も多くなる。他社による作業の進捗状況によって、さくらの工程が大きくずれ込む場合もある。そんなときに臨機応変な対応を



企業情報

設立年：2012年4月
年商：608,257,000円
※2020年3月決算時点

ありがとう メッセージ



ずっと心に秘めてはいても、照れくさくて言えない感謝の気持ち。そんな「ありがとう」を、社内報を通して伝えていただきます！
今回は小座間さんにお話を伺いました！



配管
お ざ ま た く や
小座間 拓也さん

TO 家族への「ありがとう」

「ありがとう」を伝えたい人
母です。



エピソード
母は私の名前のおかけ親です。この「拓也」という名前のおかげで、仕事で苦しいときにも道を切り「拓」いて頑張ろうと思えています。
また、私は母の手一つで育てられたのですが、母は私のやりたいことをとても尊重してくれていました。部活動で野球をしたり、専門学校に行ったりと、お金の掛かることばかりでしたが、母はいつも「やりたいことを目指して、しっかり目標を持ってやりなさい」と私を支え、鼓舞してくれていました。これらは全て母の賛成がなければできなかったことで、この後押しがあったからこそ、部活動で学んだことや仲間、団結力、忍耐力を含めて今の自分がいるのだと思います。さらに、母は靴屋に勤めているのですが、そこで開かれる接客オリエンテーションで全国1位の評価をもらっていました。その偉業を受けて、自分も母に負けられないように、やりたいことに向かって着実に進んでいかなければいけないと感じました。

メッセージ
今は新型コロナが流行っていて、接客業においては特に大変な部分もあると思いますが、新型コロナに負けず、自分にも負けず仕事をしてほしいと思います。私はこの名前を付けてもらえたことを誇りに思っていますし、この名前に負けられないよう頑張るので、お母さんも頑張ってください。

TO 会社への「ありがとう」

「ありがとう」を伝えたい人
社長です。

エピソード
この業界に来るきっかけとなったのが社長です。社長との出会いは3年前、私が車の買い取りの営業をしていたときのことです。営業の一貫としてこの会社の車の査定に来ると、社長が直々に対応してくれて、車の話だけではなく色々なお話をしました。すると、私が以前、現場で大工の仕事をしていたことに興味を持っていただき、その場では話が収まらず、仕事が終わった後にご飯に連れて行っていただきました。そこでは、人間の大成の話や社長の現場での話、社員のエピソードなど興味深い話を沢山してくださいました。そのとき、車屋として働きながらも、営業が本当にやりたい仕事ではないと感じていて、現場で体を動かす仕事をしたいと思って、社長についていくことに決めました。



メッセージ
まだまだ未熟者ではありますが、今後ともよろしく願っています。必ず大成します。

おすすめの エンタメ紹介



今回は、大坂さんにおすすめのエンタメを紹介していただきました。きっと家族で見ても盛り上がるであろう、ワクワクする作品です！「ゾンビは怖い、ホラー映画はちょっと……」と思う方も、おすすめポイントを知れば、観たくなるはず！



『バタリアン』

監督・脚本：ダン・オバノン

最初に見たきっかけは？

たまたまお店で、「面白そうだな」と思い、手にとった作品が『バタリアン』でした。この作品は、シリーズ化されており、全部で5作あります。予想以上に面白かったので、2作目、3作目……とどんどんハマってしまいました(笑)

あらすじ: アメリカのケンタッキー州ルイビルにあるユニダ医療会社で働くこととなった、主人公フレディ。彼は、先輩社員であるフランクから、軍の移送ミスによって会社の倉庫に、ゾンビが保管されていることを聞きます。2人がそのゾンビの入った容器を叩いてみたところ、そこから突然ガスが噴き出していました。しかも、なんとそのガスは、死体を蘇らせてゾンビ化させる物質である、「トライオキシシ 245」だったのです。倉庫に保管されていた死体がゾンビとなり、フレディとフランクは社長のパートを呼んで、3人がかりでどうにかゾンビを取り押さえます。パートは、ゾンビを秘密裏に処理しようと、近所で葬儀屋を営む友人のアーニーの元へ、そのゾンビを持ち込み、焼却することにしました。しかし、煙突から立ち昇った煙は雨雲を呼び、近くの墓地に染み込んだ雨水は死体を次々とゾンビにしていきました。そして、ガスを浴びたフレディとフランクも……。

おすすめ&見どころポイント



工場長
お お さ か だ い す け
大坂 大輔さん

ホラー映画を中心に、非現実的な作品を見るのが好きです！DVDを借りてきて、自宅でのんびりと鑑賞します。

ゾンビが登場する非現実的な話ではありますが、全くありえない話でもなく、現実世界でも起こりうるような設定になっているところが面白いと思います。非現実的でオーバーな演出だと、見ていて冷めてしまうという人もいられるでしょう。しかし、この作品は、場所や人物像の設定が実際にありえるものになっているので、熱中して観ることができ、ホラー映画は怖いからと敬遠しがちな方も、ぜひ見てほしい作品です。個性的なゾンビが登場し、ユーモアな要素も含まれています。きっとこの1作品目を見た方は、私同様にハマってしまうこと間違いなし！

Looking back on memories of "SAKURA"

カンパニーヒストリー

会社の歴史にスポットを当てるこの企画！今回は会社設立2年目で請け負った冷凍機ユニットの製作時の思い出や心境について、鷲尾さんにお伺いしました！

- ① 当時で一番思い出に残っていること
- ② 当時の心境は……。
- ③ 現場で学んだこと、会社に変化をもたらしたこと
- ④ 当時の自分に伝えたい言葉



わ し お ゆ う や
鷲尾 佑弥さん

① 寝ずに働いたということが最初に思い出す印象です。まだみんな若く体力があったこともありしんどいと感じたことはあったものの、無事にやりきることができ、達成感を得られました。

② 目の前にある仕事はやりきるしかないという思いが強かったです。この案件に限らずですが、一つひとつの仕事で成功させることで、どんどんと会社を大きくしようとみんなで頑張っていました。

③ 冷凍機ユニットに携わったのは初めての経験でした。毎日が学びの連続のため、明確にこの現場でこれを得たということはあまりありません。その日々の積み重ねで、会社自体も大きく成長したと思います。

④ 「もっと頑張れ」と伝えたいなと思います。今振り返ってみると、当時は体力で補っている部分が大きく、知識をつけるなどしていれば今の自分はもっと変わっていたかもしれません。